

評価シート 様式

取組名	世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業 一産・官・民・学が協働する保養滞在型エコツーリズムの実現一		
実施団体名	公立大学福岡県立大学	対象地域	福岡県田川市
(代表団体名)		推薦団体名	田川市

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたととは判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。 <input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

## 評価シート 様式

取組名	世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業 ー産・官・民・学が協働する保養滞在型エコツーリズムの実現ー		
実施団体名	公立大学福岡県立大学	対象地域	福岡県田川市
(代表団体名)		推薦団体名	田川市

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	炭坑関連の有形・無形の近代化産業遺産とエコツーリズムを結びつけた保養滞在型ツーリズムの実現を目指しており、特に多くの関係者の中で、地元の大学がリーダーとなって産・官・民・学の連携体制を構築しようとしており、全国の近代化産業遺産活用のモデルとなりうる先導的な取組である。
	○ 評価
	①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	■ 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
□ ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。	
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	本取組は、近代化産業遺産を活用した保養滞在型ツーリズムの開発を目指した事業で、大学の地域貢献という観点から学生を中心としたボランティアを活用し、これを地域の活動として定着しようとしており、高く評価できる。今後は、以下に留意しつつ地方の元気再生事業として支援を行うことにより継続的な展開が期待できるものである。
	次年度以降については、事業の本格展開に向けて、本年度の取組を十分検証しつつ、継続的なボランティアの育成体制の整備を強化するとともに、本年度の成果を踏まえ、早期にツアーの商品化を進め、ツアーの価値を高めるため田川市域をこえて、広域的な取組とすることを指向すべきである。取組の成功に向けては、地域の認知度を向上させることが必要で、一層の情報発信の強化に向けては、既に本年度開設されているポータルサイトの活用の特化して、集客を行うとともに、本年度の市民アンケート結果を十分活用し、ただちにツアー販売体制の整備を重点として取組を行うことが必要である。
	個別の取組としては、報告提案書の検討と世界遺産登録に向けた取組では、市民アンケート、ポータルサイトの開設を本年度事業で実施済みであり、以降は地方の元気再生事業の支援によらず自立的に取組を行うべきである。田川地区観光協会の設立、第4回炭坑節まつりの成功については、本年度の成果を踏まえ、ツアーの販売体制の整備に絞って取組を行うべきである。